



ポケットハンドとフード

校長 瀬戸 隆幸

時の経つのは早いもので、今年も残すところ1か月となりました。11月中旬頃から急に寒くなり、ジャンパーなどの上着を着てくる人が多くなりました。この季節になると、一気に増えるのが「ポケットハンド」、つまり「ポケットに手を入れる」児童です。私が通勤して行く途中でも、ポケットに手を入れている小学生を数多く見かけます。児童だけではなく、通勤途中の多くの大人たちが「ポケットハンド」をして歩いています。周りの大人がそうなのですから、当然、子供たちも幼いときから真似をして育っていくわけです。そこで、11月の全校朝会で子供たちに以下のような話をしました。

先週あたりから急に寒くなってきました。寒くなると、ポケットに手を入れている人が急に増えます。私に「ポケットから手を出そうね」と言われた人も、何人かいますね。なぜ「ポケットに手を入れる人」が増えるのでしょうか。「寒いから…」きっとそういう理由の人が一番多いのではないかと思います。次は「なんとなく、手を入れていた…」でしょうか。つまり、「くせ」になってしまっているということですね。他にもあるかもしれませんが、この二つが特に多いと思います。

では、なぜ「ポケットに手を入れてはいけない」のでしょうか。

一つめの理由は、「**転んだときに、手を出すのが遅れてしまい、危ない**」からです。

もしも、何かにつまずいて転んでしまったとき、手が出なかったら顔をぶつけて大けがをしてしまいます。だから、手を前に出して顔から落ちないようにするはずですが、しかし、ポケットに手を入れていると、人間の脳が「あっ、転ぶからポケットから手を抜いて体を守らなきゃ!!」と考えるのに約1秒、そして、手をポケットから抜くのに約0.6秒(0.58秒)、余計にかかってしまいます。だから、手を前に出すのが間に合わなくて、顔から転んで大けがをしてしまうのです。実際に、私が前にいた学校では、顔から落ちて鼻血を出し、歯が欠けるなどの大けがをした人がいます。

二つめの理由は、「**背中が丸くなり、姿勢が悪くなる**」からです。

伸び盛りの小学生にとって、姿勢が悪いと身長伸びに悪い影響があるだけでなく、脳の働きも悪くなって、勉強したことが頭の中に入りづらくなります。これは、授業中の姿勢にも同じことが言えます。

三つめの理由は、「**相手に悪いイメージを与えてしまう**」からです。

例えば、レストランやコンビニなどに行ったとき、店員さんがポケットに手を入れながら「いらっしゃいませ」と言っていたら、どんな気持ちになるのでしょうか。「失礼な店員だなあ…」と思い、悪いイメージが伝わりますね。たった一人の店員だけだったとしても、店全体のイメージが悪くなってしまいます。

では、どうしたら手を入れなくて済むのでしょうか。

「寒い」という人は、手袋をしましょう。手袋がないときは、手をこするだけでも少し温かくなります。でも、「くせ」になってしまっている人は、なかなか難しいです。一度、付いてしまった「くせ」は、なかなか直りません。自分で「直さなきゃ」という強い気持ちをもって「悪いくせ」を直していくしかありません。

「ポケットから手を出そうね!」なんて言われるのは小学生の間だけです。

登校中にずっとポケットに手を入れて歩いていて、学校の近くになったら手を外に出す人もいますね。「先生たちに怒られるから」とか「先生たちにバレなきゃいい」ではなくて、自分のために、ポケットに手を入れるのは、やめましょう。そして、「くせ」になってしまっている人は、この機会にその「悪いくせ」を直しましょう。

もう一つ、パーカー等のフードを被って登校して来る人がいます。最近の自動車は、ハイブリッド車や電気自動車等、ほとんど音がしないで近付いてくる車も多いです。また、自転車も同じです。フードを被っていると音が聞こえにくくなります。動物公園の前で、自転車とぶつかりそうになった人もいますね。しっかりと音が聞こえるように、フードを被らず歩きましょう。

本校では、昨年度から継続した指導をしている成果もあって、学校内では見かけることが少なくなりました。しかし、登校時には、毎日のように「ポケットから手を出そうね」「フードは被りません」と何人かの児童に声をかけているのも事実です。「寒いから、手袋しようね」と言うと「持ってない」という返事が返ってくることもあります。

「どの子も我が子」「どのクラスの子も我がクラスの子」と思って、全職員で指導にあたっていますが、より徹底するためには、ご家庭での協力が不可欠です。どうぞよろしく願いいたします。